



一人で悩まず相談して！ 地域のママ仲間を応援しています

いちかわファミリー・サポート・センター

子どもたちと夕飯をとる両方会員の永澤さん。



「さあ、おうちに帰ろう」

「ただいま〜」

「わーい！ ママ、お帰りなさい〜い」

ワーキングマザーの館さんが仕事を終えて、千夏ちゃんを預かってもらっている永澤さんのお宅へ迎えに来ました。夕飯もいただいて、永澤さんのお子さん英里ちゃんとも仲良しになった千夏ちゃんは、ママが来てさらに嬉しそう！

いちかわファミリー・サポート・センターでは、子育てを地域で支え合う活動を行っています。子育てのお手伝いをしたい人（協力会員）、手助けをして欲しい人（依頼会員）、そして依頼もするけど、時には預かることも可能な人（両方会員）

の輪が広がっています。

2002年6月には行徳支部も出来ました。核家族化が進むなか、子育てに悩むお母さんにとっては、いざというときに頼れる存在として利用するかが増えています。ただ、協力会員の数がまだまだ少ないのが現状です。

ただ今、会員募集中！



お問い合わせ

いちかわ
ファミリー・サポート・センター
TEL 047-377-5503
行徳支部
TEL 047-357-8128



ちょっと待って！ そのごみは資源です。 環境に優しい循環型のまちづくり

資源・ごみの12分別収集スタート

2002年10月1日、家庭ごみの12分別収集がスタートしました。今まで「燃えるごみ」として収集していた段ボールや雑誌など



今日はプラスチック製容器包装類を収集する日。

の紙類、布類、プラスチック製容器包装類を、今後は資源物として分けて収集し、リサイクルすることになりました。市川

市には埋立処分場がないため、焼却によって生じた灰や不燃物の処分は、銚子市にある処分場に依存しています。このままでは5〜6年で満杯状態になってしまいます。いま大切なのは何よりもごみの減量化なのです。12分別開始1カ月の燃やすごみの収集量は、22%減（前年同期比）と大きな成果をみせています。限りある資源も捨ててしまえば、



分別することで燃やすごみの量が減り、資源の有効利用にもつながる。

ただのごみ。3つの“R” — Reduce（ごみを出さない）・Reuse（繰り返し使う）・Recycle（再び資源にする）— を念頭に、「資源循環型都市いちかわ」を目指していきましょう。



仲がいいのか？ わるいの？ 2羽のシロフクロウ あんまりやきもきさせないで！

市川市動植物園

映画「ハリーポッター」で一躍有名になったシロフクロウ（メスのエミ、1997年生まれ）が、市川市動植物園なかよし広場の一員となったのは平成13年12月。さらに平成14年3月にオスのシロ（2001年生まれ）が加わりました。とても猛禽類とは思えない、笑っているようなひょうきんな表情で人気を集めています。

シロフクロウはユーラシアと北アメリカの北極圏などの寒い地方に生息しています。低かん木地帯に育つため、地面に下りて餌を探すことが多く、羽毛に覆われた短くて太い足を使ってよく歩き回り、メスの方が身体が大きく、オスは成長と



メスのエミ(左)と、オスのシロ(右)。

ともに黒の斑点模様がなくなり純白に近い羽毛で被われていきます。

縄張り意識が強く、いまは距離を保つ

てオリを棲み分けていますが、繁殖期に入る5月前後にはペアリングも?! と、職員も期待をしながら見守っています。



遊びの達人と竹馬作りにチャレンジ 作ったゾ！ 乗ったゾ！ 歩いたゾ！

ビーイング曾谷

「ビーイング曾谷」は、2002年4月に「子どもの居場所づくり」として、曾谷小学校の空き教室を利用してつくられました。放課後や土・日・夏休みなど、子どもたちが好きなきときに来て遊べる場所です。

夏休みも終わりに近づいた8月23日には、



遊びの達人が横からアドバイス。電動ドリルは垂直に立てて使ったよ。

地域の高齢者クラブの有志を招いて、竹馬作りの手ほどきを受けました。

子どもたちが挑戦したのは、足踏みをボルトで固定する竹馬です。のこぎりや電動ドリルなど、初めて手にする道具も、「ボク、やりたい」と好奇心旺盛。電動ドリルの威力にたちまちこになってしまいました。こうして次々と竹馬が完成していきます。「素足になったほうが上手に乗れるよ」



「立てない…」

とアドバイスをする有志の皆さんと、果敢にチャレンジを繰り返す子どもたち。ビーイング曾谷は世代を超えた地域の交流の場としても活用されています。